

トマト果実収量の増加

要約

管内特産の夏秋トマトにおいて、収穫前の裂果に伴う出荷量の減少が問題となっている。裂果の発生程度は品種間差が大きいことから、裂果の発生が少なく本地域に適した品種の検索を行った。また、すすかび病やコナジラミ等難防除病害虫が慢性的に発生しているため、適切な防除体系を確立して収量の増加を目指すため、すすかび病に対しては発生前からの予防散布の徹底について指導を行い、コナジラミに対しては土着天敵を活用した防除について昨年度に引き続き技術実証をおこなった。

現状(背景)と課題

(現状)

- 品種選定 — 品種
- 出荷量の増加 — %
(過去数年年平均比)



目標

- 品種選定 2品種
- 出荷量増 10%増
(過去数年年平均比)

活動内容

- 対象：管内トマト生産者
- 裂果対策：耐裂果性品種2品種を導入、品種比較検討会の開催、巡回指導。
- 難防除病害虫対策：すすかび病に対する発生前からの薬剤による予防指導、土着天敵を活用した防除実証圃の設置と巡回指導、指導者向けの「土着天敵を活用したオンシツコナジラミ防除マニュアル」の作成。

成果

- 品種選定 2品種
- 出荷量の増加 16%増加(過去数年年比)
- 「土着天敵を活用したオンシツコナジラミ防除マニュアル」の作成



耐裂果性品種導入圃場における栽培指導



オンシツコナジラミ

土着天敵を活用したオンシツコナジラミの防除実証圃と作成した指導者向けオンシツコナジラミ防除マニュアル

普及活動のポイント

耐裂果性品種を導入し、草勢管理等収量増加につながる指導を行うとともに、調査した出荷量や裂果発生程度をもとに、品種検討会を実施。

難防除病害虫対策について、すすかび病に対しては発生前からの薬剤による予防を指導。オンシツコナジラミに対して、土着天敵を活用した実証圃により年次変動を確認するとともに、指導者用防除マニュアルを作成。

対象の変化

- 従来の桃太郎系の品種に比べて裂果が極めて少ないことから、出荷収量が増加した。
- すすかび病の発生時期について、例年6月中旬頃の発生が8月中旬頃の発生と遅延させることができた。
- オンシツコナジラミによる被害で困っていた生産者は、本技術を導入することで被害の発生を大幅に低減できた。

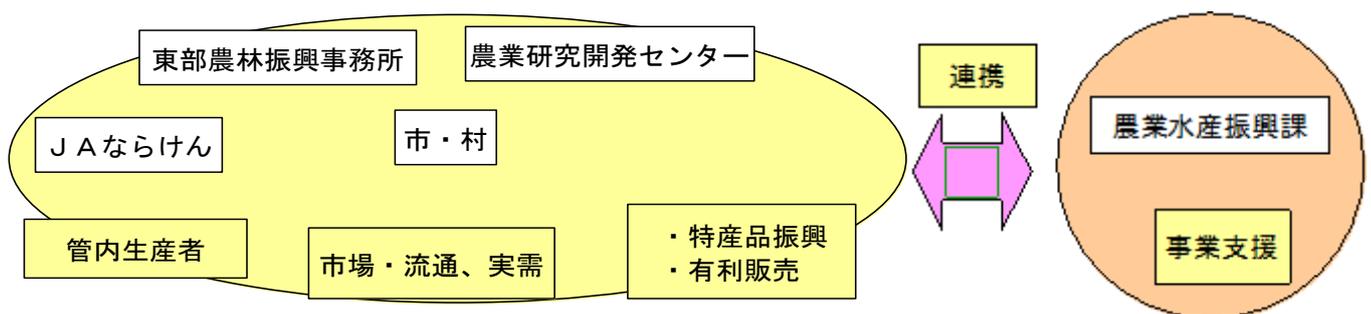
対象者からのコメント

- 土着天敵を利用したオンシツコナジラミ防除技術を高く評価している。
- 9月におけるすすかび病の被害を低減したいので引き続き、指導を願いたい。

これからの活動ビジョン

- ① 裂果対策：裂果等の発生に関する年次変動確認と他の耐裂果性品種検索の継続。
- ② 難防除病害虫対策：作成したオンシツコナジラミ対策マニュアルを活用した更なる技術普及、薬剤による効果的なすすかび病防除体型の確立。

活動体制



東部農林振興事務所農業普及課

担当：神川、安川